

## 研究業績以外のその他の論文など

158 小田憲太郎（(国研)水産研究・教育機構 開発調査セ）・岩尾敦志（京都海洋セ）・山下秀幸（(国研)水産機構 開発調査セ）. 話題 水産関連事業を円滑に進めるためのポイント ～コロナ禍だからこそ重要なコミュニケーション～. 日水誌, **86**(6), 508-520(2020)

## 研究報告掲載報文要旨

宮津湾のマナマコ桁曳漁業における操業データに基づく資源量推定方法の検討

篠原義昭, 澤田英樹

宮津湾マナマコ桁曳漁業の簡便な資源評価のため、漁業者が操業日誌に記録する漁獲情報に基づく資源量推定法について、従前の面積密度法と併せて2018～2021年漁期を対象に検討した。面積密度法から、すべての年で漁期中の資源量増加が観測された。漁期中の桁漁場への移出や成長加入が影響したと考えられ、DeLury法は適用困難であった。一方で、CPUE [個体/時間/隻]は減少・横ばいの傾向を示す年があり、分布密度が高い漁場を優先する漁業者の漁場選択の影響を受けた可能性が高い。また、漁期が進むにつれてその影響は少なくなり、漁期終盤のCPUEから獲り残し資源量を推定できる可能性が示された。

阿蘇海産天然アサリ稚貝の供給可能数事前予測の試み (短報)

船越裕紀, 田中雅幸

京都府の漁業者は2017年から阿蘇海産の天然アサリ稚貝を養殖業者に販売しており、稚貝の販売に際しては、養殖業者の養殖計画策定のため、事前に供給量の目安を示すことが望ましい。稚貝販売開始の2週間～1か月前にあたる5月頃の稚貝の生息密度調査結果と当該年の稚貝販売個数に強い正の相関が見られ、当該年の稚貝供給可能数を事前に概算できる可能性が示唆された。

京都府阿蘇海におけるクロダイによるアサリ稚貝の捕食実態の把握 (短報)

谷本尚史, 久田哲二, 田中雅幸

阿蘇海におけるクロダイのアサリ捕食実態を把握するため、捕食されたアサリの破碎殻から被食個数と殻長を推定した。殻長の推定に向け、靱帯長と殻長の関係を検討した結果、直線式よりAICの低いアロメトリー式を殻長推定モデルとした。一方、クロダイによるアサリの捕食時期は4月中旬から10月下旬までと、他の海域より長期に亘っていた。また、同時期の漁場に生息するアサリと被食アサリの殻長を比較したところ、クロダイはその時漁場に多く存在する殻長5mm～25mmのアサリを主に捕食していると推察された。